

あきざわ ゆきあつ

## ヒーローズエデュテイメント会長 秋沢 志篤氏 ②

わが道  
わが友

少子高齢化、デジタル化、核家族化が進展する中で、次代を担うリーダーを育成する、いわば「次世代創り」の一環として、今年7月、NPO法人(特定非営利活動法人)「次代の創造工房」を設立した。ヒーローズエデュテイメントが運営する「心拓塾」が一般の小学生とその親を対象としているのに対し、こちらは児童養護施設の子供たちが対象だ。リーダーとなる資質があるにもかかわらず、育成の場を与えられない子供たちに少しでもチャンスを与えたいと考えた。

具体的な活動としては、チャリティーフォーラムを行う。その収益金で、夏休みなどに養護施設の子供たちがヒーローとふれあう場を企画していくことだ。

同法人を設立する前にも、チャリティーフォーラムを過去3回開いてきた。最初は、私の小学校の同級生で元プロボクサーのファイティング原田さんが病気に倒れたのがきっかけだ。その後、回復されたのを機に、友人でミュージシャンの松山千春さんらと相談して、平成17年7月に彼を励ますフォーラムを東京ドームホテルで開催した。

タインさん、翌年5月には、病からの復帰を祝って市川團十郎さんをテーマにチャリティーフォーラムを行った。また、それぞれの方に施設を訪問していただき、児童とふれあう機会をつくってきた。

今後はNPO法人として、これらの活動を発展させていく計画だ。今は環境、福祉、教育といった問題に対し、企業や個人、行政が個別に取り組んでいる。「次代の創造工房」は将来的に、これらの活動を有機的につなげる役割を果たしたい。

一方、私は、首都圏の自治体や企業と連携して、子供が夏休みになる期間、過去から続けている祭りを掘り起こし、認知を広げるとともに、新

しいイベントを企画・開催する活動もしている。これをグレートウキョウフェスティバル(略称・GTF)と名付けている。キーワードは「ぬくもり」。アナログを軸にデジタルを駆使した21世紀型の地域おこしだ。昔から祭りには人々の不安を解消するぬ

くもりを与え、地域への愛着をはぐくんできた。

きっかけは、エーエム・ピーエム・ジャパン社長時代の13年夏に、長雨などの影響で首都圏の個人消費が冷え込んだことだ。祭りを催して消費を活気づけようと、当時、東京電力副社長(現会長)の勝俣恒久さん、東京ガス社長(現相談役)の上原英治さん、エフエム東京社長(現会長)の後藤亘さんらに相談し、翌年、実行委員会を発足させた。

さらには18年には執行機関を株式会社化して「GTF」を設立、態勢を強化した。こちらは市民参加型の祭りを展開し、長く継続していくことが目標だ。

## 「ぬくもり」もたらす祭り企画



ヒーローズエデュテイメントとGTFの仲間と(左から3人目が秋沢氏)

平成20年10月、東京・麹町